

企画名：福島市の野生ニホンザルにおける放射線被ばくの次世代影響評価(最終年)

団体名：羽山伸一

1. 報告要旨

東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の爆発で放出された放射性物質に、福島県東部に生息するニホンザルが野生霊長類としては世界で初めて被ばくした。申請者は 2008 年から福島市に生息する本種を対象に妊娠率などを観測してきたが、本研究では、次世代影響を評価するため、被ばく後 10 年間における筋肉中セシウム 137 蓄積量の推移を解明するとともに([Hayama et al. 2022](#))、胎子成長の経時的変化を観察し、胎子成長と母サルの相対的内部被ばく量との関連性を明らかにした([Hayama et al. 2023](#))。また、被ばく前からの受胎率の推移を観測し、被ばく後に 8 歳以上の個体の受胎率が低下していることを明らかにした([Hayama et al. 2024](#))。

2. 成果物

1. Hayama et al. 「[Influence of radiation exposure to delayed fetal growth in wild Japanese monkeys after the Fukushima accident.](#)」『Sec. Zoological Medicine』Vol.10 (2023.4.26)
2. Hayama et al. 「[Decline in the Conception Rate of Wild Japanese Monkeys after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident.](#)」『Arch Environ Contam Toxicol.』(2024.4.25)
3. 発表「[福島県のニホンザル・東日本大震災の影響と今後](#)」『第 39 回日本霊長類学会大会』(2023.7.7)
4. 発表「[野生動物の健康と化学物質汚染](#)」『第 29 回日本野生動物医学会大会』(2023.9.23)
5. 福島市ニホンザル捕獲個体調査報告書 (過去 16 年間にわたり約 2700 頭の解剖調査結果や公表論文等をまとめた報告書で、2024 年夏ころ完成予定)